古訓密勘注

完

特別
へ4
7842

特
ヘ4
7842

古訓蜜勘註

一 やまゐぐさ　やまゐぐさ　やまゐぐさ　

想いつれうあるとよまるるけうあるけこれはたしをれうう
くひとい鳥の中より長くなるきかつい虫の中より長遠かく
地なれいなり一切の地より一地をあるひて方地を高れいせ高上学
彩を寄ふきうふ蛙のあしけ成分ふうこるせくるやうな
又長歌序曰蜂蟬吟樹上自楽天詩曰秋蟬苦吟樹端と
也又蛙の音をしる唐曰池早蛙多鳴りて大蛇の
なよ蛙鳴くこれ多の時蛙樹の上よりてあまこうを志
者也面白よりて池ものこと多くあたとけとるいき樹
なのりて面蛙るけい面ろとて面ろてこれい蛙のるい面ろて水
いれい河出ようけを

一 をたなの事

一 あるはあるすきのをうこれこれこうまんこと
元八書多あるあるもあるこれこうあるこのるせ
夷とうありこれいこうあるれいこの義也又ひるひるこうあ
出いせこの夷をひるようと面今と夷をいふ夷のすこと
一 女神 いさなぎのこと 男神 いさなきのこと
一 あまてらさま 天の四名
一 め神を神とありたまふとい
あまてらさまの名こそ男神の神よりあるその神の神
をのりとて神あるめよめのこと神めとうあるいさなぎとの
遊合
きくひせんとの神ふその時神ふうこてのあるあふれ
ゆ名やきーとこふあひとそ時男神こうたすし

[illegible]ゆきあひて男神[illegible]
[illegible]ゆきあひて男神[illegible]
[illegible]
穴宇礼志(アナウレシ)江也美志(エヤミシ)男尓合(シトコニアヒ)ヌ
その時逢合(ミトノマグハヒ)してまつ淡路の国(目の粮反也)をうむ 次に大八洲国をうむ
次に川等をうむ 又一女三男をうむ 一女を目神(内反)
次に大神をうむ 三男といふ神(ぬ反) 蛭子(ゑ反)
素盞嗚尊(ものゝ大神なり也)

一 [illegible]

[illegible]一日本紀[illegible]の云て土なくして地いまだ金のごとくあり
[illegible]ちらつくて海ちとのごとくふかうそのうちにものあり[illegible]
[illegible]
[illegible]国を[illegible]の国[illegible]
[illegible]の国と日本を
[illegible]
[illegible]

天照大神の出かくれたまひしとき此の国の四代[illegible]
[illegible]すでにつきぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]大
和国高天の原より千のやこをしてきたりたまふそのとき天照
大神ささげ物[illegible]を[illegible]一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]たち[illegible]人をうして[illegible]
[illegible]年八三四をまるりわらんよ神わそひすり人[illegible]
[illegible]をかそうよりはあらをなをふ[illegible]
平力雄(タケヒラシ)の神として一方八千人の人力ちらなる神をりていを
をひさこはあるて其時神てちのかりてこふ白うそれの面
白といふそのちすきのをの神をもしつき而ふ[illegible]
ありさ物ふいけりのあよいう物の海をなわうき[illegible]
かくこのうきしらし白はうられ日女の海の神をれとそ
かをしなせて出雲をやすうふうれを平間の一海とふさて
其[illegible]の川上の村を村ふ人の哭すう[illegible]
[illegible]きてしうをゆき物てへものいうれを白物ふこ人の老

義光姫ててひさ[illegible]平かはらとふ女を是
[illegible]ちとふ[illegible]八人のひすちをとをこれをは二人の
ひすちはり稲田かをひらとふけ川上を大蛇あり年ごとに
はつよくらふと年三の姫をあるれをふを哭すと
其ふを[illegible]みをのう主ふけ姫を[illegible]を大蛇を
[illegible]てとを三人のかを拔てらけ白りあ千村をけ川上を人
物ふ八の器八の首を入八尾八あを大蛇をひひうれりをあり
よりうくの木竹かひくうを大りを酒船を入てを八の器
八の器をかきて稲田姫を湯津の爪掃をさてけ酒船の
[illegible]を鏡のをとくをみをとうをしををけ大蛇のみを寄
[illegible]姫と器をのをんをて器首をあり酒を寄のをて[illegible]

[illegible]ん如せる[illegible]刀剣をぬきて[illegible]すこしきりつゝ二の尾よりいでゝ
[illegible]すれるあやしきを[illegible]て八さきみさきてん[illegible]の[illegible]きわ[illegible]さ
[illegible]りかれをうして天照大神[illegible]まつり給ひけ尾の上に常よ[illegible]
[illegible]色の雲[illegible]ち[illegible]ありけるさをいあまのむらくもの剣と[illegible]
なつけ給ひすさのをのみことゝ[illegible]るけきやさしてこれを天照
大神の御ゆゑこれをめ[illegible]ふり給ひ清中国[illegible]りてのち一
年十二月の中十月一月をとゝふ也つ[illegible]ふ[illegible]
百万神たち十月よりつ[illegible]へ[illegible]り給ひ[illegible]神の出給ひす
[illegible]神[illegible]月とゝ[illegible]れ[illegible]雲国の十月を神在月とゝ[illegible]

一三十三天あり一りの事

[illegible]

[illegible]

一八雲たつ[illegible]やへ[illegible]

やへのきはたつもこの[illegible]へ[illegible]

[illegible]れ世一字のたゝめるゆゑ

一すさのをの尊とあまてらす大神[illegible]このゝ也[illegible]ふ[illegible]

[illegible]りこのゝことゝ[illegible]尊をこ[illegible]

のゝ[illegible]ていまする[illegible]ゆゑ　蒼白[illegible]ていまして女[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ふ[illegible]て[illegible]

[illegible]れの神や　但[illegible]一曲[illegible]すさのをの[illegible]

天照大神の[illegible]ゝ也[illegible]也[illegible]事也

一[illegible]ゝ[illegible]の事

高野聖記指図下　高野記自徴麿

一　ひとりの事

麿（たりにて）泊（とまり）をきつちゆりはしへ　まれ源氏

物語すゑちとうをうかたの夏つくそうき

一　なかつつの事

松浦さきの門に仁徳ちの皇の御事也八幡人井の御子也清

子二人ありて　子すゑ事をいらせ　ちれ　文と申ひつるを宮法の文

よゆつりまれるうちのうちも　光のあやまりていく　紙

事也いそうけゆをかきて　代をとりつきとふふつの文

遠く　紙あふりとゆへとも出つるしてみとやまてに女

よ事ゆすうかたよ人　感　指　胡也とうへりてま

ゆふふへうとそかしるふへりてまいれ

ちへうとそかいへふをうすう

ゆへうれそ人しれるきうりれをりてあまう紙

りのゆへ社をうくこいりとうかうよ國よ王ゆすう

ずその時王仁といふ人の文のあつうとうけさうい狭とあて

をつうかとも位をうけとうあまりとも者れとさてのうす

ミ行也ときいう法の文紙いてあれいうとて多とう

て前法のそのときいう法の文へふふつのういう法を顧

の文をひうてるき法ときちとうかつて法て紙しすちを

やとうしあへとそかふつの文をひこふとう法てよりとのこと

ふたそのときケふその文信と法ときを王仁ちうして

二条ゐんとよりうを参りてあり本の書きるりまと仮名
正仁とい奏振皇のすゑ高麗の人京極太政大臣と大鶴
鶴を申い歌の道にすぐれたりしかとかの井賢
りまれい文選の鶴鶴賦ふと一枝よすくしたりい敷のまち
けるすらふとみそくりとんこうまれ清盛の時と祇
國民をあつれまて三年に洪水をゆるまれ民あるをつきうう
仮名くく

なき屋よりてまれの鶴ふ民の命をさめきしふあり
せめそいーけりとう

一 あさうふの事

清輝の名わりり采女と同共時のとしの采女せ

一 葛城大王　天智天皇とも申　橘諸兄とも申

一 唐の寺ふとくそありつきふ事

唐寺とは毛詩をんすりよ六義あり風賦比興雅頌

一 河よいつきの事

ふれの行をとうーりのひつものあいふきとい煩悩のかせ
ふ行をいつきとしいーりきとふきせ

一 君よはさあーなの歌のあきて いつたえりきとふきせ
さーん

元久

一 こめ方の事

毎

こしろとそすすこれせーりの色をとくこしのあーりつ
つ花せくあるうい いやせて有ふせいやとは云富まあり

一 [illegible]といふこの事

[illegible]

一 この義心得てこれをうきくさ[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [

一 [illegible]ハ文武と[illegible]用[illegible]ハ[illegible]
文武[illegible]ハ[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
山[illegible]

一 [illegible]
一 [illegible]の浦 紀伊國

[illegible]

一 [illegible]
[illegible]持[illegible]

一 年ハ百季代ハ十継[illegible]の事
[illegible]百年[illegible]代ハ十代[illegible]
平城 淳和 仁明 文德
清和 陽成 光孝 宇多 醍醐
一 [illegible]の事
一 清涼殿[illegible]
一 [illegible]の時[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
仁波也

一 ほしいものをけつぐらんとてうく
恵澤 [illegible]

一 すんつゝき 皇也
[illegible]

上ゝり[illegible]すると下ゝりもせてまつをと尊てゐる
壬生

一 ひのふくらん 昔
一 まくらこと 枕詞

一 たゝひる 棚引也

古今第一

一 神ひらて 漬也 飯を小漬ゐんとゐふ字をとく
一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 ものうらいわさこと也 懶(モノウキ)けしき也 懶顔

奉幸(ミユキ)　帝王をゆきうてゝ也 又義

さしあたりのうさうしゝ也 すゝとあるより

一 春日のこうしの節ちゝ事

こうしとゝ燈(トウロ)也 芳天智天皇の御時いこうしたち

よけ物ゝ燈火をあをられうれ氏まりをこゝ

火のかゝりといふ所也 或説曰 丟目なる

こうしの森といふりわりとしされていてみよと

ゝふ也 ゝふ野ゝる

一 こうしの松の事

松の雪ゝくきゆゝ也 その中ゝ松ゝあゝ物あるより

物曰 松栢義雪又源氏の物語より松ゝ雪あゝ

みとあるゝ所ゝ松の雪ゝふきゝ

一 我せこう事　背(セコ)　妹(イモ)　書(シヨ)　史(シヒト)

あさゝゝいとゝうゝふ美しゝ

一 りちとう　常也　又百ゝあるより　常ようゝうゝ

我せこの也のこゝりゝちとうちとうれとゝきゝ

ゝれゝ妹ゝ意の方也ゝれゝいまけゝうゝ也

一 ゝちゝ月ゝきゝゝ也ゝあるゝゝこゝうか

ゝちゝこゝ逝(ジテ)也ゝゝきゝ使也ゝこゝゝ美ゝゝ

ゝるゝゝあり別の義ゝゝ他一説ゝゝこゝゝ

一 [illegible]せられて[illegible]人をとり[illegible]
みちゆきぬり

三千 通行籠(ユキ)(つ)ゆきかりたるゆきの[illegible]
一 月[illegible]りいれとも[illegible]物の[illegible]
月[illegible]そのつきて[illegible]物[illegible]月[illegible]
[illegible]

一 [illegible]人[illegible]やうはあるかの[illegible]
あるかの[illegible]義也 又[illegible]文[illegible]
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]
[illegible]

離(ハナレ)と[illegible]
又人の中をいふれやうよりの[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]人[illegible]
すきうの[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]人[illegible]

春下二

一のちちくちそうてづき梅ちらあて世の井そのうらは
これい物のもとよりてさくとかちうり梅ちうての
後は枝ちうつきて日ちきりそのこかちきりて又
三法橋りゆと常住るれいのわくも佛さと云生元家
ハ仏ようもこもゆつまてて海波うつ持れつきあまいよ
是墓のいをわこさしうしたちうよ如彩道弘法とてうよ
家を唱へ法りり

一きうしてよすは世のしうきせめてい難せ

一雲林院うんりんいんとおこねていしうしたうあんとしに

一あれこうて春のゆうちちあまふと
鄙
ちうこ
ちうりうこそうかせ

一東寺雑院ハ待賢門小左生也

一うりハ水とうい清滝ミツとうけ滝ハうそ四裏ニ菊茶をうう
ゆり水之

一ことるしハさうやわらあ
ゆるしはりめくのうくるるいと四段つ

一うきて立ケ うきていはるつ四つうう也

一山たりうつ弘ちうさうつ四凡ハ四つきうすつうり
ゆれいひくのゆり貴之かつてうう也根本中堂い
美濃ゆ来りてきせい凡と四つうきせ法へうれうち
ら一也ゆりてようゆ也へうう所也

一みもゆをうしうくすうちうい也

一 くれないの花のけいの
ちりのなごりをしがるつきの花のみちのくのようの殿
門渡の大猫のなきけとよろこのちみの出家
一 さく花のちるさかりかな
手負ふ人のあしをなげ具平親王ぬちつさとの手負をけり
一 ゆるしなくてこそらるるこゝろ
こゝろの形くゝ日の字なり 日多とも
一 ゆるかめく かりてゆるへて 並字
一 いまのかしいやすら寄也
一 心のわやゆうさそられ 芳益
一 川出るく井てのふかきさゝふくりてるのさりよあいまゝ也を
芳橋寺文う井平大納そよ 長ぶ心源大よゆんとち
ゝうて井平へまりれを大酒をあまりはまいよりるり
一 ゆりゝうらうしまて
うらいおや うらしまてゝ 中群
一 水のまふく まふく 随元とけり
夏三
一 あるれてゝゝゝ ゆりゝさや 懐とよろり
竹燭 芸懐源 秋月 面流ゝゝやうり
一 心ゆるうらつつき うらめつきい明をゝるるゆう宿
ゝゝるるく時月をんゆくゝへ
一 あるひきれ車

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

大和國議上 布流布富義やうふるさとの梅ぞ[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [

一 [illegible]
これの行方をわかのうら[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋寄上に

一 秋きりとめたる[illegible]ふみて[illegible]
[illegible]よい清瀾(セイラン)も鬼不見人(キヌ)の見風

一 川風のすゝしくあるう
このあるれる文字をいかと思へ

一 [illegible]の寄

一 [illegible]の[illegible]
[illegible]日の[illegible]

一 [illegible]
[illegible]日の[illegible]

一 [illegible]事
天の[illegible]
[illegible]

一 [illegible]の川[illegible]
初秋[illegible]
[illegible]の生れ[illegible]の事[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]

一あつたなつさけくきつたん　藤氏の房書
一いかれはせるのるくるつ
るくるへこるくるふゆつと云同同輪屑ちい
しあくさるりこつき別へとうといふ
伊勢ら前
あつとしいかはせるのかへすいへ人と言ちゆんさき
悔軍流ちのるるへ下て伯時ちへのいれをいる
かはせへそいかはせとうかそちゆいさてろし
これのしまるりとそやこれしら親白いかはせいさ
ち有るへ名ちすとやはせいのるの言ちへ言ちい
つりいとそ答られか

為家へ
秋の田はいかはせるへこれとうれはりよとすれ嵐
又いかはせるのたつのこれとしたそうよいかはせるよ
うすられるしよすしそうふかとよろう和ちに輪屑と
けうたつの本多鶴と車せ家流いたりつきう
一いとやとたれわるう　けいとう
一名ようそかれうつりそ根詠恩　二のかれうい折へ
一秋のやわれと思へしきりくすす　これ秋のちに
かりへつとしへてさそかりへつるへんとよろう
一梅門は移を帆はあをそうれう
ず屑詳り檜といふ本多あり

一 [illegible]

一 高砂尾上　あまさこの迎なり　法華の人名

大臣席門賛歌寿

逆鬢

あまさこ社のもと　[illegible]

但席のたまさこ　[illegible]

一 [illegible]

一 秋のゆふ　[illegible]

たまはは風流とかたれをんとようは[illegible]

[illegible]

紫下上

一 かこをもれあしの原

一 神なびの森　山城の国　甘南の森

一 秋はいわすすゝ　[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

但家葡萄　[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

ゆつる坂のやうにちいさくかつて水をたれいてうきぬまと
いつていくのつきのやうにあるゆゑに水のたまりぬまと

一 瀧田川ちかくちかの神社の二口の社の時分ゆゑ
神南備の清宮とかけり　大和物語

一 ゆゑさたちの　行道とかけり　昔物語
ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ

一 ちかの神代きさすらつかれる井水をかとた
これの神代めとうるいきすす　かりつかとよろ神
代のものにの字を略せられ　松中ねのつかり
つのもと

ちかの神の事　千盤佐神とつくるせられ庫

又熱田の神の一品として鉾を出ろ佐神と迩家
又茅葺屋古とかけり　芳神代又賢きの山時の茅蓋
芳りとして家をつきたるつかす米をて
三きねりかつつすすられ百姓のついをとゆゆい
きし伊せた神文のせ　ちかの木として朱丹をいろ
ろかす又神代代をてきねつくる　芳唐の賢王唐
芳唐農業代代茅葺ふ勢様掃ふ制丹車ふ鍋衣
服ムを文といつるれ代社を茅の葉としてつきくりきれろ
これ茅葺屋古といつる又茅葺也板とそう神文豆子
りとのきふ時茅痛と身こうきりちの葉をとりてつきふ也
又血早彼とけり人神代　基金ある他神とり也金ある他

鬼とかの鬼神の二神の怒とされたるまつり時に疫旱疫死する時に疫旱疫とされる人に即神也泉式部保昌ようとまれて
去年神へ参て七日七夜籠りて七夜まで籠する夜保昌
もとられて三位の位を神宜泉式部まいて牛車より
なる也神宜をこうて三位にして有ひるんとかれ
泉式部

疫旱疫神ハ人ようとうとうとう

一かよそ山田ばりかよ[illegible]ちらて
これ服者の衣よあらすゆきわさの衣ゆり

一ひつちの事　前田ゆり又ひくゆ植のくも

一ゆ月のはこりゆ水ゆ[illegible]てようゆ貴之
各月歌かつれ山ゆ[illegible]しれ[illegible]のちゆ結ゆ
ゆ　はゆ[illegible]ゆ

冬六

一はゆ面の面をしてあきてして
衣の紐　面の津　ふひゆ[illegible]と姫のをゆ衣れ
い神の名や

一各ゆれ衣年さし

各ゆれ　各去や　春ゆれ結き　冬去　皆同色
あゆちよ各ゆゆゆゆそはゆきやゆれゆゆれゆやよ
きつく物のむとけゆ

一いまゆりはけきてゆゆ
つきての連や　紐の連といはけ字をゆ

賀年七

一三年のゆさしてのいそくすしゆ
甲斐国れ名和と海道よあすゆゆ甲斐の出三海道
一ちゆゆゆ神やきゆゆ[illegible]ふ子とのさしてのつゆ
ゆれの出かゆの時はときいゆすゆゆ賀と六年の年ゆ
十年つよかゆちとゆゆはけの事海年六月初年日年

杖よりやまこち花をかこて四裏（まつ）ゝ花やまこちこふ
江戸ゆきの道橋よりすまを
一有儀海（アリギウミ）　ありそうみ　小間海苔
離別歌八
一すかるく秋のこきいすうとい麻ゝり小芳江のつ
のまに行時へすうとい小芳ゝ又ゝ秋の中いすありてゝり
けまに秋をすかるくゝ但不見信用ゝ麻ゝり
一人をゝのよかるくゝさんやゝ　ありくゝさんやゝとゝ坂とゝ字ゝり
坂をかるくゝとゝようをゝとゝれゝゝ坂（コウ）ゝ坂（ミち）とゝうゝて
ゝゝるくゝと坂ゝるくゝのゝゝ坂（コウ）ゝ坂（ミち）とゝうゝて
ゝゝゝゝゝゝ坂ゝゝゝゝれゝ坂の字をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝようゝ
一ゝのゝゝゝ海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 [illegible]
一 いのちふつかあるべきこと　遣唐使をいふ　けふふいふなり
一 人やりの事
人やりのたとへあり。花園せんの人を流さるゝ。
ゆくたとへやりのたとへ。花園と流さるゝを。
源氏物語人やりのるゝこゝろあるべしとよろいきうし術
うきこゝ

羈旅九

一 わまの原ふりさけみれば
振さけみるべたとへ
一 わたのつゝ八十島かけて
わたのつゝ八十島かけて
ひこのつゝ海邊原とうつゝ海邊とうつゝ
みうこいるこれ白くひさかたの雲の原といふこゝろ
位ふ富也八十島ハあまたしまなり
高砂のをのへのさくらさきにけりとこゝろ
つき八月さくらハ春のものなるをとふこゝ
一 ミつの原いけ川
芳天智天皇五大伴もみけ川ていたるこゝろ
いけこゝ川をきてこゝろきよつきて
一 かのゝ原ハ酒のあさきこゝろ小まこゝろ
雪ハ雪まをこゝろと四段雪ハ酒ハ酒のこゝろあるべし
雪ハ雪ハこゝろとこゝろ　但秘蔵の伝あるべし

一やこうの事

一説ニまつうらと云説あり

一こうしのあきとうわすれあけこのもの

ぬさい光源のこのしげつのたわもたしものこといわさう

のうせ

一地名十

鬻

つくしたいくよそうちいつ学るとのをるかるくん

そうつ曹保庫とうけなこすすもあまくら学ぶ寿ニ千也

一梅

わかうちよ一称梅つくしたあふ意うこき寄い白川也

穴蕚目也ニ称い梅とうしひとてうたてくて穴蕚

とうつとうい天台也四綱ハ四綱ハ

一かつにいさうく　朱梅とんけり

ひんいさくんもしとにていうくりうく

一ふうきの木　ちのうき柿やニ称ハ寄ハ也

一くうた　こでんや　くとこうい　めいにて　ひとい同め

庸膳也　庸胖ともけり一説木幄

源氏のうちよけいこうみとくけうおりいたちすがまの

りうちけこのやうま木よりいけくうり

一さうい　ちうしの事　蕭嶽也

神けさうひとそみうなの美を　ふいちうてうこ

一きちうこの花　きつめやこの花　桔梗也
一ちをふ　ちをム　蕙蘭—荒
一ちうこんのむ　ちうこんさうも　龍膽也
一ひふう　けんうも　牽牛子
一やまゝ　ちの花也　羊蹄
一かつらぶくさ　川よりてのりもすのりん　川菜也
一さうりけ

いちようにうらうらんも日ゝけのつゝん神まつる時也
しこのうけをうして羅ゝ人神をるとのつけ
み神ゝきりゝ祭りとるムのまん日ゝけめいをして来そ
ひすふりゝ

一いさうふ　かりそうかをいふ也
一いゝさき　ちうもも国水うゝこの名有也
一うゝや川　紙屋川とめけり
論語くゝ　ゝこれうてすゝすゝ人ゝとそく
ちきうゝ也小姓の四祐ゝ西平姓の四祐ゝ
一百和香　立月ゝ日ゝ方角をとりてゝ子ゝ方也
一すゝちうゝ　すゝちうゝのゝ　五流とけり
一わき火　をう火也
一かつゝのゝや　石ゝ也
一かつゝ海の木　東ゝりゝ
さ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

但ハ偽ナリ

一ちやふけつう義

ちと〻ハ腰(丈)ヒけつう義ハあてもとけるる

但ハ偽ナリ